



エピソード

ドールハウスで遊ぶ友達の様子を見て、自分のドールハウス（お家）をつくりたくなったA児。「んー、どれにしよう」と呟きながら①大小、形が様々な箱を何度も持ち替えて選び、つくり始めました。しばらくすると、「これくらいの大きさの箱ないかな、床にしたいんだけど。」と②手で大きさを表しながら保育者に伝えました。保育者が、「このくらい？」と手で大きさを真似すると③「んー、もっとこんな感じ」と、さらに手を広げて言いました。④保育者が箱をいくつか用意すると「あ！これならできるかも」と言って自分が考える大きさの箱に近い箱を手に取り、それを床に見立てて、「おうちできたよ！」と嬉しそうに伝えていました。

保育者の思い

- ①自分が満足するまでじっくり箱を見比べて選んでほしいと思い、A児の様子を見守りました。
- ②どうすれば、具体的に自分の思いや考えが相手に伝わるか、気付いてほしいと思いました。
- ③言葉で伝わりにくいことは、身振りで具体的に伝えようとする姿を認め、その気持ちを大切にしてほしいと思いました。
- ④保育者も身振りや言葉でA児に確認しながらA児の思うイメージに近いものを用意したいと思いました。

子どもの育ちや学び

- ・家庭での経験を遊びの中に取り入れようとしています。（お家には床や家具が必要など）
- ・“床は大きい（広い）方がいい”という思いから、大小の違いに気付き、探しています。
- ・より自分のイメージに近いものをつくろうと、何度も箱を持ち替えて選んでいます。
- ・そのイメージを保育者に共有したいという気持ちが言葉だけではなく、身振り（手で広げる）で表すことに繋がりました。

家庭だったら・・・

家庭から出た空き箱や、ラップ芯などの廃材は大人にとっては使わないものでも、子どもにとっては遊びをつくるための素敵な道具になっていると思います。何かをつくるたびに、なるほどなあと関心できるものを子どもたちは作りだしています。家庭でも廃材を子ども達に手渡してみてください。素敵な遊びをつくりだすと思います。